

赤い絨毯を踏みしめながら衆議院議場、天皇陛下ご休所、中央広間等を見学。建築資材は「化石の宝庫」とも呼ばれている柱など貴重なものばかり。その豪華さ、素晴らしさには先人のなした功績に敬意を禁じえない。ことにご休所の造作は、当時の建築や工芸の粋を集めたものだ。

厳粛で貴重な建築物である国会議事堂を拠点に、重要な職責を担っている国会議員は、自らを律し、気概を持って国政に携わってほしいものである。

あべともこ衆議院議員との会談は、話題の「後期高齢者医療制度」。その矛盾点を取り上げ、この制度廃止法案を提出し、従来の法案に戻すよう提案する旨の話に一同集中。

貨幣博物館で興味深かったのは、日本銀行券に描かれた肖像人物。各方面で日本の未来を築いた方々で、改めて紙幣による社会との関わりを再確認した。

また日本銀行本店は国の重要文化財に指定されており、行内の中央広間は小説「鹿鳴館」に出てくる舞踏会場を思わせる優美なもの。特に印象深かったのは、明治29年に設置され百年以上使用された地下金庫。いかにお金や債権を厳重に保管していたかを伺い知ることができたものであった。

参加者50数名余りの盛大な見学ツアー。ありがとうございました。

(東海岸 安室雅世)

### 後援会会員募集

会員の方には、県政報告を年4回送付させていただくとともに、くさか景子が主催する各種イベントのご案内をさせていただきます。

年会費 1,000円

お近くの郵便局にて、くさか景子後援会(10220-84281491)へお振り込み願います。

### くさか景子のFIRST REPORT発行

神奈川県議会議員としての1年間の私の日常活動、議会活動、また議会での裏話などをまとめた「FIRST REPORT」を作成しました。

無料で配布していますので、ご希望の方は、くさか景子事務所までご連絡ください。



### 活動記録「ファーストレポート」発行記念パーティ盛況に終わる!

6月8日(日)茅ヶ崎市役所分庁舎において、発行記念及び議員活動10年目のパーティを開催。

日頃お世話になっている市民の方々をはじめ、国会議員あべともこさん、茅ヶ崎市副市長、市議会議員、労働組合関係、事業者、市民活動団体、NPOの代表者の方々など、幅広い分野からたくさんの方々にご出席いただき、くさか景子に対する激励や今後の活動に対するご要望やコメントをいただきました。くさか景子の日頃の活動内容について、具体的に賛同を表明された方もおられ、今後の連携、協力が期待されます。

後半は、「9条世界会議」で司会をされ、くさか景子と意気統合した古今亭菊千代さんの落語公演。落語の面白さは勿論、東京拘留所や養護老人ホームを訪れて、意欲的に落語活動を展開しておられる菊千代さんの経験談に一同感動の拍手。一味違う交流、懇親会は盛況のうちに幕を閉じました。



6月8日(日)発行記念パーティ

### お知らせコーナー

#### 定例議会の開催日程

9月	19日(金)	本会議
	22日(月)	本会議
	25日(木)	本会議
	26日(金)	本会議
	30日(火)	本会議
10月	2日(木)	常任委員会
	3日(金)	常任委員会
	6日(月)	特別委員会
	8日(水)	常任委員会
	14日(火)	本会議

是非一度、傍聴にお越しください。

#### 編集後記

今、木村拓哉演じる政治家ドラマが話題になっている。

陰謀の渦巻く政界に身を投じた主人公の誠実さと決断力のある人間性に、共感を覚える人が多いのだろう。毎回、国会議事堂が映し出され、政治用語が飛び交い、リアルな社会問題に果敢に挑む政治家の姿に、今まで政治に関心のなかった、小中学生や、主婦層が政治に興味を持ち始めたというメッセージがインターネット上に書き込まれている。

選挙のたびに、政治への関心や意識が低いと嘆く前に、現実努力している政治家の姿をもっとわかりやすく見せる工夫が関係者に求められている。政策スタッフY・A



神奈川県議会議員

# くさか景子と未来をつくる会

県政報告 Vol.6 2008年7月



発行責任者 神奈川県議会議員 くさか景子

連絡先 くさか景子事務所

〒253-0041 茅ヶ崎市茅ヶ崎 2-6-30 MAXビル 3-A

Tel&Fax 0467 (58) 0290 e-mail future@grace.ocn.ne.jp

http://www3.ocn.ne.jp/~children/

くさか景子のハチドリのひとつく

## 6月県議会報告

## 神奈川県の脱温暖化と

## 低炭素社会への提案

今年から京都議定書の第一約束期間が始まり、洞爺湖サミットでも最重要課題であったように、国内外で地球温暖化をめぐる動きが活発化しています。

世界の首脳は、温室効果ガスの削減目標を2050年までに50%とするということにおおむね合意しています。日本も中期の2020年までに14%削減の可能性を述べています。しかし、この間にも地方自治体や企業、市民のレベルでは先進的な取り組みがたくさんできています。例えば佐賀県では、画期的な方法で太陽光発電の導入を促進し、住宅用太陽光発電の普及率は全国でもトップレベルです。自治体から国を動かし、地域から低炭素社会への転換をはかっている事例が増えています。

一方、神奈川県は二酸化炭素排出量は、1990年と比較して、2005年の確定値が12.7%、2006年の速報値も10%増となっており、温暖化対策

は喫緊の課題です。また、県の特定排出事業者が設置している845事業所の排出量は3223万トンで県内総排出量7157万トンの約45%も占めており、特定、大口事業者のガス排出削減の取り組みが極めて重要です。

県では、温暖化対策の条例案が今年度中に提案される予定ですが、他の先進自治体のように、CO2排出量削減の数値目標を明確に打ち出すことや、市民、事業者、行政の責務や具体的戦略を盛り込む必要があると思います。

2007年4月より始まった、水源の森林保全、再生、河川の保全、再生の特別対策事業を推進するための財源としての県民税の超過課税である「県水源環境保全税」のように、県独自の温暖化対策税を設けるなど独自性も持つべきだと考えます。



●ハチドリのひとつく(南米先住民に伝わる物語)  
森火事に一滴ずつ水運ぶハチドリに対して、森から逃げた動物たちは「そんなこと何になるのだ」と笑います。ハチドリは「私はいま、私にできることをしているだけ」と答えました。  
この行動の評価は私達自身に委ねられます。「自分一人が何かをしても何も変わらない」と思うのか、自分一人でも何か始めないと何も変わらないと思うのか、ずいぶん違います。

### 神奈川県の提案

#### クールネッサンス宣言 !!

#### リーディングプロジェクト

- ① 県庁からの率先実行  
県庁の政策や事業をエコ化!
- ② 県有施設に太陽光発電を設置  
モニターで発電状況を表示!
- ③ 電気自動車(EV)普及促進  
2014年までに県内3000台の普及
- ④ インベスト神奈川第2ステージで  
新エネルギー・EV関連産業へ助成
- ⑤ 太陽光発電を行う個人、助成制度を持つ市町村への支援
- ⑥ 神奈川独自の炭素税の創設  
を検討
- ⑦ レジ袋の使用抑制キャンペーン
- ⑧ マイバッグの使用奨励
- ⑧ 白熱球使用禁止、自粛、電球形  
蛍光灯の使用を呼びかけ
- ⑨ 金融機関と連携し、優良事業者  
や家庭へ低利融資を実施
- ⑩ 県民、企業、団体等と「クールネッ  
サンス」を共有し、ネットワーク拡  
大
- ⑪ 世界と国際連帯を組み、世界に  
発信!



神奈川県議会は本会議と委員会(8つの常任委員会と4つの特別委員会)で構成されており、くさか景子は文教常任委員会に所属しています。



## 文教常任委員会(抜粋)

### 教育委員会の点検、評価

県教育委員会は、教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を平成19年度に策定しました。また、毎年、教育行政の管理執行状況については、自己点検及び評価を報告書にまとめ、公開することになりました。今回は、平成19年度の総括です。いじめ、不登校への支援、特別支援教育の推進、県立高校改革、キャリア教育の推進など63事業の現状と今後の目標を設定しています。

### くさか景子質問抜粋

教育相談コーディネーターの配置はできたが、中身の充実はどうか？

すべての小中学校に1名ずつ教員をコーディネーターに指名したことは、評価できるが、支援の必要な生徒へのコーディネートが実際はすすんでいないのが現状。支援の必要な生徒への個別計画をつくり、その生徒にはどういう支援体制をつくる必要があるのか中身の充実が求められます。

特別支援学校の分教室(普通高に設置の高等部)の方針転換を求める！

特別支援学校の過大規模化に伴い、普通高の5教室を借りて高等部を設置しているのが分教室であり、現在8校、県は今後も進めていく方向。県はこれをインクルージョンと言う。本来のインクルージョン(障害の有無に関係なく一元的に教育を提供する)は、普通級と一緒に学ぶことだと考えます。神奈川県のように教室を借りる分校方式ではなく、大阪府の知的障害生徒自立支援コースの取り組みのように、高校の1コースで同じ教室で授業を受け、行事にも参加することではないだろうか。県の答弁では、あくまで分教室の方針は今後も変わりないのです。

### フレンドリースタッフの役割とは？

県では、平成19年度よりNPO法人J-ENEP(文教大学松本先生代表)との協働事業で、県内小学校に教員志望の大学生を「フレンドリースタッフ」として派遣しています。

目的は、児童のよき遊び相手や話し相手となったり、学習の支援をしたりして、小学校における問題行動などの発生を予防すること。大学生にとっても、将来のために小学校の現場を知り、自分の適性を考える意味でも、意義のある事業です。

19年度は小学校40校に配置されたが、大学生にも限界があり、需要においつけないのが現状。学校側では、手助けにはなることを認めているが、支援を必要とする生徒の見守りであったり、教師の補完的な役割をする重要な要素もあるのに、ケース会議などには参加させていません。根本的な学校内の問題解決を図るには、中途半端な存在。あと1年で協働事業が終わりますが、課題が残ります。

私立学校への県教委の関与はできないか？

県では、年間470億円、幼稚園も入れて989校に私学助成を行っています。経常経費の約半分。県はお金の助成だけでなく、経営や方針にも助言を出せないのか。具体的には、障害児の受け入れが学校によつて異なり、対応に困難がなくても断るケースがあるが、県として受け入れて欲しいなどの働きかけができないのか？との質問に、私学助成は県民部の所管で、教育委員会とは関係ないという。方針くらはい出せると思ったが、答弁を得ることができませんでした。

### 視察報告

#### 学校現場は今！

#### 今宿小学校のフレンドリースタッフ

今回、この6月から今宿小学校に派遣されたM君に同行取材しました。

M君は週2回、8時半から12時半まで、授業中なかなか席につけない児童に付いて世話をしたり、高学年の児童とサ

ッカーをしたり、女の子たちに囲まれたりと、とても人気者です。こどもたちは、年が近いせいか、すぐなついて仲良くなります。

スタッフの学生は自分の大学の勉強もある中、単位のつかないスタッフとして1年間務めることは大変なことでしょう。しかし、担任の先生は、大変忙しく、少人数学級がまだ不十分で、手が行き届かないため、支援の必要な児童に付き添ってくれるスタッフはとてありがたい存在といえます。

今、小学校現場では、スタッフの他にも、介助員、ふれあい補助員、スクールカウンセラー、心の相談員、養護の先生、PTA、地域のひとたちなど大勢の力で、学校を支えています。それはとても素晴らしいし、学校だけにお任せしない多面からの係わりでこどもたちも育っていくと思います。

しかし、根本的には、30人を基本として少人数学級を行き届かせ、忙しい先生もゆとりをもち、クラスの間も私たち一人ひとりと丁寧に係われる時間があるよう、教員の加配も必要だと思います。



今宿小学校にてフレンドリースタッフの方と

